# 第１回 公式参加国共創フォーラム ～大阪・関西万博に向けて

# 開催報告

一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構　事務局作成

# 第１回 公式参加国共創フォーラム　～大阪・関西万博に向けて
# 開催報告

「第１回公式参加国共創フォーラム ～大阪・関西万博に向けて」を 2023 年 3 月 23 日(木)、一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構主催、公益社団法人２０２５年日本国際博覧会協会、経済産業省近畿経済産業局、一般社団法人関西経済同友会、公益社団法人関西経済連合会、大阪商工会議所後援で開催致しました。

## 開会の挨拶

**井垣 貴子氏　一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構 代表理事**

公式参加国の参加表明が 142 か国に達し、いよいよこれから世界中の国・地域の多様な文化・価値観を持つ人々を大阪・関西のみならず、日本全国でお迎えし、日本の魅力を発信し、地域や企業や大学等との交流やビジネスを促進することで、多様な文化・価値観の相互理解が進み、大阪・関西万博が目指すテーマが実現していくことが期待されます。
夢洲機構は「公式参加国共創フォーラム」を継続開催し、世界の国々と日本全国の自治体、企業、大学等の交流やビジネスの多様な場を拡げ、(仮称)「いのち輝く未来共創グローバルイニシアティブ」を誕生させ、未来社会を創造する国際的な交流・共創の輪を拡げていく所存でございます。

## 第１部　講演

### ◆講演Ⅰ

**タイトル：「大阪・関西万博の最新動向について」**

**高科 淳氏　(公社)2025 年日本国際博覧会協会 理事・副事務総長**

万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」です。このテーマを決めた時はコロナの前ですが、その後コロナの流行、或いはウクライナ問題があり、「いのち」について考える良い機会になると思います。
2025 年 4 月から 10 月の開催で、来月が 2 年前で、いよいよ 4 月からパビリオンやリングなどの建設工事に入ります。リングは全長 2 ㎞、直径は 600m、高さは 12m、すべて木造の構造です。リングの中が各国のパビリオンで、リングの外が企業のパビリオンです。各国パビリオンは、文化や価値観も言葉も多様な国々から参加いただきますが、リングの中で一つに繋がっているというメッセージが込められています。地下鉄延伸工事が進んでおり、夢洲の駅の線路道床やホーム、コンコースのコンクリート部分などは仕上がってきています。今年は、パビリオンの敷地の引渡しがあり、建設工事が始まります。年内には前売り券の販売も開始したいと考えています。
各国の参加については 150 か国の目標に対し、公式に参加表明いただいているのが 142 か国です。昨年の 10 月には IPM（International Planning Meeting：参加国の準備会合）を開催し、100 か国から約 240 名にご参加いただき、工事期間中の電気や水の供給、宿舎、交通問題などが議論されました。昨秋の会議は、各国がパビリオンを建設する国が中心でしたが、博覧会協会が建設した建物に入っていただく国々を対象とした IPM も今年 6 月に開催予定です。整備スケジュールは、まさに今各国がゼネコン選定を進めているところで、我々も全面的にサポートしながら進めています。

企業パビリオンは 13 の企業・団体が確定しており、パビリオン建設にかかる最終準備段階に入っています。8 人のテーマ事業プロデューサーのパビリオンも準備を進めています。個性的な各プロデューサーのお考えがだんだん見えてきて、ワクワクするものができると期待しています。
パビリオンだけではなく、会場全体を未来社会のショーケースにしようと、スマートモビリティ、デジタル、バーチャル、アート、グリーンについても、様々な企業の協力を得ながら検討しています。例えば、スマートモビリティでは、空飛ぶクルマがあります。事業者も発表し、関空から夢洲、大阪市内のどこかに飛ぶことができるように準備を進めています。デジタルでは、自動翻訳システムも進めており、各国の方々と円滑にコミュニケーションができれば、1 つの実験として面白いものになると期待しています。バーチャル万博も、本格的なバーチャル万博を展開するのは今回大阪・関西万博が初めてなので、公式参加国のバーチャルパビリオンも建てていただき、世界中の方々が、万博に参加できる形をつくりたいと準備を進めています。アートでは、ウォータープラザで水上ショーを期間中毎日開催します。
このような形のあるものだけでなく、催事・イベントなども万博を盛上げる 1 つの要素です。愛・地球博の時には 7,000～8,000 の催事が開催され、今回もかなりの数の催事が見込まれています。公式参加国が開催されるナショナルデーは、各国にとっても大きなイベントで、本国から要人が来られて非常に盛り上がるイベントになると思います。おそらく開催期間中、毎日どこかの国のナショナルデーが開催されている状況になると思います。
自治体参加催事もあり、既に知事会等を通じて説明させていただき、具体的なお話を始めている自治体もございます。
ドバイ万博で実施した「テーマウィーク」を大阪・関西万博でも検討しています。宇宙、SDGs、食、水といったテーマを決めて、一定の期間でそのテーマについて世界中から関係者を集めて、会場内のメッセや各国パビリオン、会場外施設、企業などと連携しながら、徹底的に考えるウィークになります。テーマは今後発表になりますが、関係の深いテーマの場合には、是非各国パビリオンの中でもイベントなどを同時期に開催いただければと思います。
課題の 1 つが機運醸成です。大阪ではある程度認識も高まっていますが、それ以外の地域をどう盛上げるかが課題です。各地で人気のあるミャクミャクや、テーマソング、近々発売予定のライセンスグッズなども使いながら盛上げていきたいと思います。
そして、万博を素材とした旅行商品化や子ども達に教育旅行で万博に訪れていただく取り組み、万博国際交流プログラムなども検討してきたいと思います。

**◆講演Ⅱ**

**Marc Kuipers（マーク・カウパース）氏　オランダ王国 総領事**

1970 年大阪万博では、オランダのテクノロジーを披露し、海面下にある国としてのユニークな立場を世界に示しました。1970 年万博のテーマ「人類の進歩と調和」は、当時の時代背景緊密に繋がっていました。技術の進歩と、その進歩が同時にもたらす環境への影響や人間性の喪失など、負の面も見せ、その課題を解決しながら、調和を失うことなく進歩していくという方法を示すものでした。
2025 年の大阪・関西万博のテーマ「いのちが輝く未来社会」について、幸福とは何かを改めて考える機会となるでしょう。
パンデミック、セキュリティ、ヨーロッパでの戦争、食料安全保障など、数多くの世界的な喫緊の課

題にどう対応していくのでしょうか。世界の国々にとって幸せで繁栄する包括的な社会を如何に築くかを示さなくてはなりません。
まず重要なことは、万博はオランダにとって、日本との関係を深めるためのプラットフォームであるということです。日本とオランダは長きに亘る関係があります。1600 年に初めてオランダの船であるデ・リーフデ号が日本の九州に流れ着き、江戸時代はオランダのみが幕府から交易を許された国であり、鎖国時代の日本で、出島、適塾が西洋への唯一の窓口でした。日本の学者たちはオランダ語を習い、出島から西洋のものを学びました。同様に、日本もオランダに大きな影響を与え、多くのオランダ人にとって、日本はまさにスタイルとセンスの象徴的な存在となっています。オランダと日本の歴史的な強い絆をさらに強めていきたいと思っています。我々は、人権、平等、経済の交流、貿易や投資などの経済面で強いパートナーです。貿易と投資における対日輸出は 47 億ユーロ、オランダには 700 社以上の日系企業が進出しています。イノベーションを生み出し、そしてレジリエントで包括的な
社会を築こうとする同士でもあります。また、新しい技術、将来の社会を形づくる技術も持っています。再生可能エネルギーを使って、気候変動に対応した世界をつくることができます。そして、ライフサイエンスヘルス、再生医療の面でも協力し、世界の人々の健康に資することができます。
今の社会の課題は多岐に亘っており、気候変動、健康と高齢化社会、新しい経済世界秩序、安全保障、水、エネルギー、食糧危機など、グローバル危機に対応する必要があります。こちらに素早く対応し、若い世代のいのちを守る強い社会をつくるためには国境を越えて協力し、適切な解決策を見出すことが必要です。知見、イノベーションを共に合わせてグローバルの課題を解決していきましょう。
オランダは、人口は世界 69 位、面積は世界 134 位の比較的小さな国ですが、経済面では、GDP は世界 19 位、1 人あたりの GDP は世界 13 位の大きく開かれた経済をもっています。ビジネス環境が優れており、高い生活クオリティがあります。また、ヨーロッパで最も収益性の高い市場の 95%がロッテルダムとアムステルダムから車でわずか 24 時間の距離にあります。オランダはヨーロッパで最も競争力が高く、競争力の指数は世界 4 位、食糧輸出は世界 2 位です。そして、多様で公平かつインクルーシブなワークスペースをもっており、世界で 5 番目に幸福な国とされています。競争的な経済力を持ちながら、ワークライフバランスを保つという両立ができています。またイノベーションの面で政府、企業、研究機関で協力が緊密に行われています。オランダの上位 13 大学が世界のトップ 300 に入っていて、うち 6 大学がトップ 100 です。
万博への取り組みですが、日本とオランダは BIE の設立国です。ロンドンの第 1 回 1851 年の万博からすべての万博に参加しています。2020 年ドバイ万博にてオランダは、サステナビリティ、デザイン、イノベーションなど 11 の賞を受賞し、125 以上のイベントを開催し、100 万人以上の方が参加されました。
2025 年大阪・関西万博において、世界の課題を共に解決するプログラムを考えており、チームとして協力して幸せで健康的な社会をつくっていくために貢献したいと思います。
オランダはパビリオンを独自で建設します。昨年 5 月に参加表明後、オランダはドイツとともに最初の 9 か国として博覧会協会と正式な契約を結び、最初の 4 か国としてパビリオンの設計・建設入札を開始しました。設計・建設において、株式会社淺沼組を含めた日蘭の企業からなるコンソーシアムが構成され、継続して議論を進めています。6 月 5 日には、大阪とオランダ同時に、パビリオンデザイン、テーマ、プログラム、スケジュールを発表し、正式にスタートします。
パビリオンではエネルギー転換、ライフサイエンスと健康、ハイテクとデジタル化、農業食品と園芸、文化、多様性、インクルージョンなどオランダのハイライトとするものを展示していきます。万博に向けたこのエキサイティングな冒険に参加できることを楽しみにしております。主催国日本に

対し、敬意と感謝を表します。そして、大阪・関西全体の成功に向けて尽力します。

**◆講演Ⅲ**

**Martin Eberts（マルティン・エバーツ）氏　ドイツ連邦共和国 総領事**

ドイツにとって大阪・関西万博は、中長期的な方針・戦略のために非常に重要な催事であり、参加できることを光栄に思います。また、ドイツと日本の科学、技術、経済における多くの面での協力を示す良い機会でもあります。

ドイツは、16 の州からなる連邦であり、ヨーロッパの中で最も人口の多い国です。現在の人口は 8,300 万人で、多くの移民がドイツに入ってきていることが課題です。ドイツの都市は、アジアの国に比べますと、それほど大きくなく、最も人口の多い首都ベルリンで 380 万人です。そしてハンブルク、ミュンヘン、ケルンとなりますが、日本に比べてそれほど大都市ではありません。これは歴史的な構造が要因で、ドイツは連邦であって中央集権的な組織ではないということです。それぞれの地域でドイツの中で多様的な文化が育まれています。

ドイツは EU 最大の経済大国で、アメリカ、中国、日本に次いで世界で 4 位、WTO ランキングでは中国、アメリカと並び世界の三大輸出国です。ドイツは日本とともに貿易に多く依存しており、国際的な法秩序に基づいています。

ドイツは日本と同じくイノベーション駆動型の産業をもっており、GDP の 3.2%を研究開発費に充てています。これは OECD の平均 2.5%を大きく上回っています。ドイツの研究機関は国際的な繋がりを持っており、日本とも緊密な繋がりを持っています。3%以上を研究開発に投資をするという非常に稀な国となっています。

ドイツの研究と高等教育の状況について、ドイツは留学生にとって、非英語圏の国で最も人気のある受け入れ国です。420 の高等教育機関が 21,000 の学習のコースを提供しており、この多くが英語で行われ、エンジニアリングや研究など多くのコースがあります。ドイツの教育は、大学以外の研究機関というのが非常に特徴的です。例えば、マックスプランク協会は、300 万人の留学生がおりまして、約 33 万人が大学で学んでいます。世界で高いレベルの教育・研究を誇るドイツに、留学生に来ていただくようにお勧めします。

そして、ドイツは、生活の質が高く、これが万博のテーマの「いのち輝く未来社会のデザイン」と響き合うものです。将来の理想的な社会は、金銭的或いは安全性だけではなく、幸せな世界であると考えています。

ドイツは国際的で発展した文化を持っています。日本とドイツでクラシックや文学が広く鑑賞されています。ドイツと日本では共通して、音楽が愛されています。音楽だけでなく文学やアート、そして建築の分野があります。これはバウハウス（世界初の総合的なデザイン教育を行った機関で、現代にも影響を及ぼすデザインを数々生み出してきた）の運動はドイツ、ヨーロッパだけでなく、世界各国へ広がりました。日本とドイツは長い文化的な伝統があり、ゲーテ·インスティトゥート（ドイツ連邦共和国を代表する文化機関として、海外におけるドイツ語教育の推進と、国際的な協力に支えられた文化活動を展開する）が関西にあります。

それでは、ドイツの万博への参加についてですが、ドイツは万博の国でもあります。日本とオランダ、ドイツはこの博覧会国際事務局（BIE）設立メンバー国です。ドイツは博覧会、トレードフェア、展示会のチャンピオンであるとも言えます。2000 年ハノーバーの人・自然・技術をテーマにした万博がありましたけれども、1965 年のミュンヘンは交通の万博であり、1957 年のベルリンは住まいと

暮らしの万博であったことはご存知でしょうか。これは過去と未来を橋渡しするもので、2025 年のテーマと今関わっているのではないでしょうか。ドバイ万博では、ドイツパビリオンはデザイン・イノベーション・サスティナビリティの分野で賞を受けました。ここでは 10 万個のプラスティックのボールを 10 万のアイディアに見立てて展示しました。ドイツはアイディアの国として、長きに亘り投資を促進してきたので、この展示は非常に意義深いものでした。
大阪・関西万博におけるドイツパビリオンについて、サブテーマに「いのちをつなぐ」を選びました。「いのちをつなぐ」というのは、実際の毎日の生活に影響を与えるものです。そして、SDGs では、№9 産業と技術革新の基盤づくり、№12 サステナビリティを選びました。ドイツが参加を表明した時、日独国交の 160 周年の日であったことを大変嬉しく思います。
パビリオンの設計について、デザインや建築をする企業の選定を続けており、まず 16 の全ての州の民間や文化機関、研究所などからコンセプトアイディアを募っています。
開催 2 年前の 2023 年 4 月 13 日に、ドイツで基本コンセプトを発表し、その後日本でも発表します。
大成功に向かって努力し、大阪・関西がさらに発展しますように祈念しています。

## 第 2 部　パネルディスカッション

＜登壇者＞

◆高科 淳氏　　(公社)2025 年日本国際博覧会協会 理事・副事務総長
◆Marc Kuipers 氏　オランダ王国 総領事
◆Martin Eberts 氏　ドイツ連邦共和国 総領事
◆山谷 佳之氏　　関西エアポート(株) 代表取締役社長 CEO
◆野田 義和氏　　東大阪市長

＜モデレーター＞

◆高橋 朋幸氏　　(株)三菱総合研究所 執行役員営業本部長

**高橋 朋幸氏：**
まずは第 2 部よりご登壇いただく山谷様、野田様に第 1 部をお聞きになられたご感想、ご質問あるいは各総領事の皆様にお聞きしたいことについてお伺いしたいと思います。

**山谷 佳之氏：**カウパース様とエバーツ様には今年 1 月中旬に関西空港に来ていただき、関西に機能が整った国際空港があることをご案内しました。
1970 年大阪万博が開催された折には、何度も足を運びました。オランダ館には素晴らしい映像があり、当時 13 歳の私は非常に感性を揺さぶられました。今、断片的にしか思い出せませんが、開放感

と人間性を多くの若者に植え付けられたのではないかと思います。ドイツ館も素晴らしく、地上にドイツ庭園がありパビリオンは地下でしたが、1つ地上に出ているオーディトリアムという音楽棟がありました。ドイツの音楽を最新鋭のオーディトリアムで体験できたことは非常に素晴らしい思い出です。
前職時代は東京に「すみだ水族館」、京都に「京都水族館」をつくりました。「すみだ水族館」は人間の感性を取り入れた水族館、「京都水族館」はアクアリウム＋京都庭園と、まさにオランダ館、ドイツパビリオンのようなセンスの下につくらせていただきました。

**野田 義和氏：**全国1,421の市町村がありますが、その中で地方が国の政策をつくっていこうという志をもった首長、公民連携を積極的に取り組もうとする首長、の首長勉強会を私が主催しており、地方自治体の万博への関心が非常に強いことを申し上げたいと思います。
外国は万博に対して強い関心を持ち、多くの可能性を感じられていることが改めて理解できました。日本企業の99.7%が中小企業で、大企業は0.3%しかありません。日本の経済、モノづくりの構造は中小企業が支えていると考えています。各国におかれては、大企業ではなく、中小企業と直接、未来社会を創るためのイノベーションを共にやってやろうじゃないかという思いをお持ちなのかどうか、お二人の総領事様にお伺いしたく思います。

**高橋 朋幸氏：**それではカウパース様、エバーツ様にお伺いしたいと思います。山谷様からは1970年大阪万博でのオランダパビリオン、ドイツパビリオンが今でもレガシーとして、その精神が使われているといったお話がありました。野田様からは日本では中小企業が日本経済を支えていますが、各国では中小企業が未来社会のイノベーションをどう共創して取り組んでいるか、お伺いしたいと思います。

**Marc Kuipers氏：**まず戦略的な面として、万博は皆にとって現在、そして将来を見るための重要な催しです。万博は単に6カ月間の美しいイベントではありません。万博は目的ではなく、目的を達成するための手段です。日本との協力について、経済、技術、文化、どの面でも、万博に非常にピッタリと合う素晴らしいプラットフォームになります。文化、ビジネス、科学技術の面でも多くの交流を行うことができます。総領事として、国だけではなく、地方の多くの企業からなる代表団を2025年に向けて日本へ送りますので、それぞれのビジネスや科学技術の分野で交流を続けていきたいと思います。
そこで非常に重要なのが関西国際空港です。こちらは日本を訪問される方にとって、最初に足を踏み入れるパビリオンとなるのです。そして、東大阪市と特別な関係を構築し、協力していきたいです。近く東大阪市を訪問し、東大阪市とオランダ、相互に恩恵をもたらす関係を築くための具体的な

話をしたいと思います。

**Martin Eberts 氏：**まず中小企業の役割ですが、ドイツの経済も中小企業によって支えられています。大企業だけではなく、家族経営のような企業がドイツでは重要な役割を持っています。そしてイノベーション、クリエイティビティのバックボーンでもあります。非常に感銘を受けており、2025 年にいくつか具体的に見せていただけるものと思います。
文化の面ですが、イベントのコンセプトをどのように活かしていくかを考える時に、文化の組織が重要な役割を果たします。オリンピックのホストタウンのネットワークを万博に活かせないかと考えています。オリンピックのホストタウンには、ドイツで知識もあり、その協力に非常に関心をもっていますので、それを無駄にしたくないということで、2025 年の万博に向けてこの関係を如何に活用できるかを考えています。

**高橋 朋幸氏：**今、企業との交流やオリンピックのホストタウンの活用といったお話もいただきました。これを受けて、高科様にお聞きしたいのですが、参加国と企業・自治体の共創について、どのようなことをお考えでしょうか。

**高科 淳氏：**万博も中小企業の参加は非常に大事なことと考えています。先日、CDC（Co-Design Challenge）といって、中小企業がデザイナーと一緒にアイディアを形にして、万博にご協賛いただく取り組みを発表しました。他にも色々な形で参加していただきたいと考えており、経済産業省中小企業庁等と相談しています。
万博における共創について、色々なレベルで共創ができるプラットフォームを考えています。その 1 つが催事です。自治体や参加国が主催するものもあれば、ナショナルデーもあって、それぞれにやっていただいても良いですし、一緒にやりたいと手を挙げていただければ共創に繋がっていくと思いますので、ご関心あれば考えていただければと思います。
テーマウィークはある特定のテーマについて、関心のある国や企業、自治体に手を挙げていただき、色々な企画をしていただけるので、上手く活用していただけるのではないかと思います。
オリパラのホストタウンも大きな機会になると思います。オリパラの際に多くの自治体に手を挙げていただきましたが、コロナ禍でなかなか思うようにできず、不完全燃焼感をもった自治体もあり、また、オリパラではやらなかったが万博ではホストタウンに関心があるという自治体もあると思います。折角交流関係ができたのに、これで終わってしまうのは残念だという自治体も多くあると思うので、万博を 1 つのツールとして交流が続く仕組みを内閣官房が中心となって考えています。
国民同士の共創という観点で、TEAM EXPO というプラットフォームがあります。万博でこんなことをしたいという人がチャレンジとして手を挙げて、支援ができる人がパートナーとして手を挙げて、既に 1,000 以上のチャレンジが登録されています。大企業が SDGs の基づく壮大な取り組みをするものから、中小企業の取り組み、学校の子どもたちが万博の替え歌をつくって盛上げるといったものまで、様々です。海外向けのホームページも近々立ち上げて、このプラットフォームを海外にも広げ

る予定です。チャレンジする側とパートナーになる側のマッチングも考えていますので、そういったところで一緒に何かできることもあるのではないかと思います。その中で興味深い取り組みについては万博会場の中で期間中にお披露目する場も考えていきたいと思います。
様々な形の共創のプラットフォームがあるので、是非、色々な形で関わっていただけることを楽しみにしております。

**高橋 朋幸氏：**山谷様にお伺いしたいのですが、企業との交流、イノベーションがキーワードとして出ていますが、参加国とビジネス交流をする上での期待にはどのようなものがありますか。また、関空が最初のパビリオンというキーワードもいただきましたので、その辺りもお話し下さい。

**山谷 佳之氏：**日本国政府主催の万博ですが、開催地が大阪・関西ということで、関西空港から直行便がオランダ、ドイツに飛んでいることは、大阪に 2 つの国が領事館を置いているということとあわせて、大きな価値があると思います。是非この直行便を利用して両国の人々の交流を、万博をきっかけに深めていただき、素晴らしい大阪・関西を発見していただきたいと思います。大阪人や関西人の気質は非常にフランクで、人と人との距離も短い。おそらく企業と企業の距離も短いので、非常に素晴らしいコラボレーションができる素養があると思います。

**高橋 朋幸氏：**野田様に、自治体という観点で参加国と自治体との交流への期待と、HANAZONO EXPO での参加国との交流など、お考えをお話しいただければと思います。

**野田 義和氏：**多くの自治体は参加国と経済、文化芸術、スポーツ、教育といった面で交流したいという強い思いを持っています。
東大阪市では、ラグビーの聖地である花園ラグビー場でのスポーツ交流、或いは日本有数の音響設備を誇る音楽ホールを有しているので、舞台会場施設の提供ができます。また、小学校、中学校で各国の子どもたちとのオンラインやメタバース上での日々の交流もできるのではと期待しています。
東大阪市は、万博にファーストペンギンでありたいという思いから、昨年 11 月に HANAZONO EXPO を開催し、2 日間で 7 万人が来場しました。HANAZONO EXPO は今年、来年、2025 年も続けたいと思いますので、オランダ・ドイツをはじめ参加国各国にご参加いただきたいと思います。

**高橋 朋幸氏：**最後に、「いのち輝く未来社会」をデザインしていく上での、国際交流、文化交流、共創の輪を拡げていくことへの期待や課題、メッセージをお願いします。

**高科 淳氏：**1 つは、万博は見ているより関わる方が絶対に楽しいので、多くの方に飛び込んできていただきたいと思います。もう 1 つは、テーマが「いのち輝く未来社会のデザイン」ということで、未来社会を担う子どもたちが色々な形で交流できることが大事だと思いますので、そういう点でもご協力いただければと思います。

**Marc Kuipers 氏：**まず、素晴らしい国際交流が実現することを楽しみにしています。この国際交流を成功させるために、野球のサムライジャパンの毎日厳しいトレーニングをして、集中して結果を出すという姿勢は非常に重要で、まさに博覧会協会そして参加関係者の皆に求められることだと思います。非常に大きな課題として、労働力不足、建設資材調達問題など多くありますので、博覧会協会と多くの企業関係者とともに乗り越えていきたいと思います。
万博は 2025 年だけのものではありません。夢洲でだけではなく、日本全国の大小いくつもの会場で行われる大きなイベントだと考えます。既存のセミナーや会議、新しい派遣団など、あらゆるものを万博と結び付けたいと思います。それが公式参加国にとって、来日が非常に意義深いことであるだけでなく、日本の団体、都市、トレードフェア関係者にとっても非常に実り深いことです。
そして、この万博に共に力をあわせていきたいと思います。多くの催事は、他国と交流する良い機会です。日本とオランダは共に協力して、万博の成功に向けて取り組んでいきたいと思います。

**Martin Eberts 氏：**2025 年の万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」は、非常に将来性のある素晴らしいテーマです。日本と参加国が同志となり、実現していくことが重要です。既存の経済や技術の問題を解決する新しい方法を見せるだけのものではありません。如何にその生活や経済、技術を人々のために使っていくかです。
万博の意義は、将来の課題「いのち」に向かっての問題に対して注力することです。国際的な協力をしながら進めることで、2025 年の万博が記憶に残り、次のレベルに進めるものになると思います。

**山谷 佳之氏：**「いのち輝く未来社会のデザイン」は素晴らしいテーマで、世界の参加国もこのテーマには共感すると思います。1970 年大阪万博の入場者数は 6,400 万人、その中での海外の方は 150～200 万人だったと思います。今回の大阪・関西万博は、規模は少し小さく入場者予想は 2,800 万人、うち 350 万人が海外からの入場者という想定です。50 年前とは社会構造が大きく変わり、多くの海外の方をお迎えする万博になります。日本は短期的な海外旅行者のおもてなしは得意ですが、長期的なコラボレーションを如何につくっていけるかがキーとなり、レガシーとしていかなくてはいけないと思います。

**野田 義和氏：**「いのち輝く未来社会のデザイン」、このデザインを描く社会実験場として是非自治体を活用していただきたいと思います。同時に自治体は、沢山の果実をそれぞれの自治体につくり出していきたい。これは自治体の立場としての万博への大いなる期待です。

**高橋 朋幸氏：**今回公式参加国との初めてのパネルディスカッションで、多くの課題、アイディア、提案をいただきました。これこそ国際交流の場でもあり、今日がその切欠の場になればと思いますので、今後も引き続き続けていきたいと思います。

<u>閉会のご挨拶</u>

**高橋 朋幸氏　株式会社三菱総合研究所 執行役員 営業本部長**

博覧会協会の取り組み、オランダ、ドイツの取り組みについてご紹介いただいた後、「いのち輝く未来社会」を創造する国際的な交流・共創の輪の拡大について、ご提案いただきました。

今後、夢洲機構では、「公式参加国共創フォーラム」を継続開催し、世界の国々と日本、大阪・関西の自治体、企業、大学などの交流や、ビジネスに繋げていくような場を拡げて参ります。また、本フォーラムを契機に（仮称）「いのち輝く未来共創グルーバルイニシアティブ」を誕生させ、国際的な交流・共創の輪を拡げて参りますので、ご支援を賜れますと幸いです。

以上